

# これからの 家づくりのキギは ズバリ「省エネ」

● 少子高齢化の進行で日本の人口は  
2005年をピークに減少し、空き家が増加。  
● 今後は住宅があまる状態が加速すると考えられています。  
● これからの家づくりは、住宅を資産として考え、  
● 価値を高めることが求められています。



## 住宅の資産価値を判断できる 「住宅性能表示制度」

住み心地がいい家は、住宅としての「性能が高い家」＝「資産価値が高い家」とも言えます。ですが、その価値を客観視するのは難しいので、住宅の性能を数値化して評価できるようにした制度が「住宅性能表示制度」です。国が定める基準をもとに、第三者機関が法律に基づいて住宅の性能を客観的に評価する「住宅性能表示制度」は、住宅の性能や資産価値を把握できるだけでなく、さまざまなメリットもあるので、これから新築を検討している方は、ぜひチェックしておきたいところです。

「住宅性能表示制度」は2種類に分か

れており、設計段階で図面を確認する「設計住宅性能評価」と、住宅完成後に確認する「建設住宅性能評価」があります。新築住宅の性能表示項目は全部で10項目。そのうち、地震などに対する強さを評価する「構造の安定」、柱や土台などの耐久性を評価する「劣化軽減」、配管の清掃や補修のしやすさを評価する「維持管理・更新の配慮」、省エネ対策を評価する「温熱環境」の4つが必須項目で、それぞれ各項目では、「耐震対策は2等級」「維持管理対策は1等級」などと等級で表すことになっています。

## 資産価値を高める以外にも メリットが多い「省エネ住宅」

「住宅性能表示制度」の必須項目に挙げられる「省エネ対策」では、冷暖房の

エネルギー削減を目的とした断熱措置が求められています。2020年には、建築物省エネ法に基づいて、住宅の省エネ基準の義務化も予定されているため、これから家を建てる予定の方は、断熱措置は必須だと言えるでしょう。もし仮に、省エネの義務基準に満たない住宅を新築してしまった場合、せっかく建てた住宅が、数年で資産価値の低い住宅として扱われることにもなりかねません。その点「FPの家」は、硬質ウレタンフォームの「FPパネル」で高断熱・高气密を実現しているため、「温熱環境」の等級としては最高の4等級をクリア。高い基準も安心の省エネ住宅です。

「住宅性能表示制度」の評価を受けた住宅は地震保険料の優遇があり、耐震等級によっては最大50%の割引を受けることができるほか、評価内容によっては「フラット35」などの住宅ローンの金利の優遇や、万が一、トラブルが起きた場合、紛争処理機関に紛争処理を委託することもできるなど、メリットが数多くあります。また、高断熱・高气密の省エネ住宅は売却するときにも、資産価値として高く評価されるという最大の利点もあります。



二世帯住宅は税制面・建築費・生活費でお得、でも一緒に生活に不安があり悩んでいる皆様へ  
同居はお得？別居は楽？親子で考える最適！家づくりセミナー

9月15日（土）10時～12時

ハウステックショールーム内  
テックランド金沢本店（ヤマダ電機）

【内容】・同居 or 別居のメリット・デメリット

- ・親世帯、子世帯目線に分けて、実際の声を比較
- ・2世帯住宅の”成功”間取り事例を大公開
- ・税制でお得な方法
- ・セミナー参加後にショールーム見学 etc...



最新の住設がそろった  
ハウステックショールーム内観



【MAP】

家族の形を決める事の大切さ

～これからますます進む「少子化」と「空き家」問題～  
今後、少子化と高齢化は益々進んでいき、このままでは古家に住む独居老人が増大していきます。

人生100年時代、親から子、子から孫へと住み継がれていく丈夫で経済的な家。年をとっても孤立せず、健康的で明るくゆとりの暮らしができる形が一番理想ですね。

自分たち家族には、同居か別居どちらが良いのか、将来の事を先送りにせずに、考えるきっかけにいただければと思います。



代表取締役 堀本 範雄

参加ご希望の方は、電話かメールで事前にご予約をお願いします。【限定先着5組】

【TEL】076-252-0288

【mail アドレス】mail@horimotokoumuten.com

FPの家 工場見学会

2018/9/8(Sat)  
2018/12/2(Sun)

@岐阜県大垣市

年内残り  
2回開催

『FPの家』は、夏は涼しく冬は暖かく年中快適。なのに光熱費は抑えられる！今はどの会社でも「高気密・高断熱」と言うけれど、使用する断熱材は30年50年後も劣化しないものですか？

ここが  
すごい！

断熱材なのに耐震性もある？  
耐経年劣化は業界No. 1  
壁の中まで結露防止  
(無結露50年保証)  
etc

家を建てる前に、構造の違いを見て体感してください。建築後、30年後も性能が変わらない安心を！



ご予約はTEL、メールで1週間前までお願いします

FPパネルの硬質ウレタンは火災に対しても安全です

高気密・高断熱の『FPの家』で、扱っている硬質ウレタンフォーム断熱材は実は火災に対しても強いことをご存知ですか？その秘密は、工場生産する際に発泡剤と一緒に難燃剤を混ぜているからなんです。

万が一、引火しても「自己消火性」を発揮して燃え広がることなく、大切な家族や財産を守ります。

7月に建築現場で起きた大きな火災事故は、現場発泡ウレタン材への引火が原因ではないかと報道がありました。

同じ材料のウレタン断熱材でも、現場発泡と工場生産で大きく性能が異なります。

住まいの知恵袋

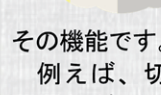
屋根

切妻



日光や雨風から家を守るだけでなく、遮音や遮熱の役割もある屋根。家の外観を左右する屋根の形状は見た目の良さも大事ですが、それ以上に大切なのが

寄棟



その機能です。

例えば、切妻屋根は、比較的丈夫で雨漏りがしにくいという特徴がありますが、デザイン性が低いこと、屋根から落ちる雨や雪が2方向に集中しやすいというデメリットも。いっぽう、寄棟屋根は、落ちる雨や雪の量を分散できますが、切妻屋根よりは構造が複雑な分、雨漏りの可能性が高まります。そのため、屋根の形状は、雨や雪が多い地域であったり、風が強い、隣の家との距離が近いなど、地域性や立地を考慮に入れて選ぶ必要があります。

編集後記

この夏は本当に毎日暑かったですね。今年初めて、小学生になった子供が夏休みを過ごし、毎日宿題に遊びと大忙しでした。真っ黒に日焼けした背中に充実していた夏を感じます。ようやく過ごしやすい季節になり、行楽やお出かけもしやすくなって楽しみが増えた今日この頃。夏の疲れを取りながら、これから着工予定の工事にも力を入れていきたいです。

株式会社 堀本工務店

〒920-0005 金沢市高柳町4の1番地2

TEL:076-252-0288

mail@horimotokoumuten.com